

肝疾患！ お酒の飲みすぎや、肥満に注意！！

1. 肝疾患による死亡状況の全国との比較

沖縄県では県民の健康長寿の向上を目指した「健康おきなわ21」行動計画(アクションプラン)を作成し、「20-64歳年齢調整死亡率」を指標値と設定し全国と沖縄県の状況を比較しています。その中で肝疾患の状況をみると、1973年-2009年間の20歳~64歳の年齢調整死亡率(人口10万人あたり)では、男性が女性より高く、男女とも全国では減少傾向ですが、沖縄は増加しています。特に男性の増加傾向が大きくなっています(図1)。

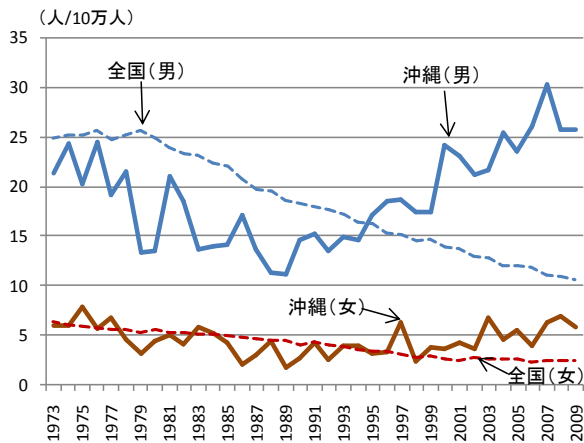


図1. 沖縄県及び全国における肝疾患死亡の20-64歳年齢調整死亡率の年次推移(人口動態統計より)

2. 肝疾患死亡に占めるアルコール性肝疾患

2009年の沖縄県民の肝がん、ウイルス性肝疾患を除く肝疾患死亡の状況では、男性はアルコール性肝疾患が51%、肝線維症及び肝硬変33%、女性では肝線維症及び肝硬変が55%、アルコール性肝疾患19%と多くなっています(図2. 図3)。

肝疾患死亡の全国と沖縄県の比較では、アルコール性肝疾患死亡は沖縄県の男性は全国と比べ死亡率が2倍以上高く、アルコールによる健康への影響が大きくなっています。しかし、肝硬変の死亡率も高く、肝疾患はアルコールが原因だけではないことがわかります。(図4)。

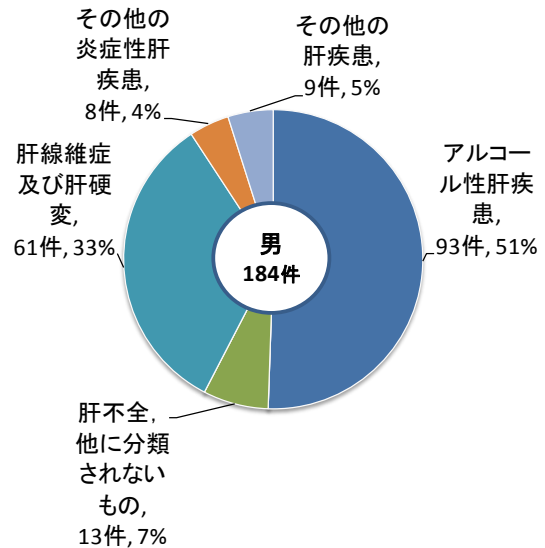


図2. 2009年沖縄県の肝疾患死亡件数 男(人口動態統計より)

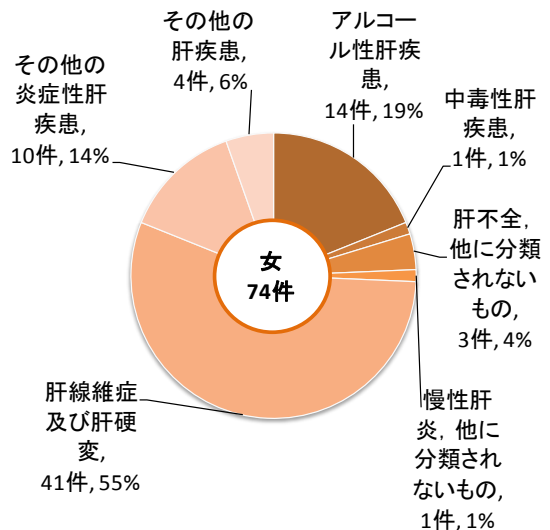


図3. 2009年沖縄県の肝疾患死亡件数 女(人口動態統計より)

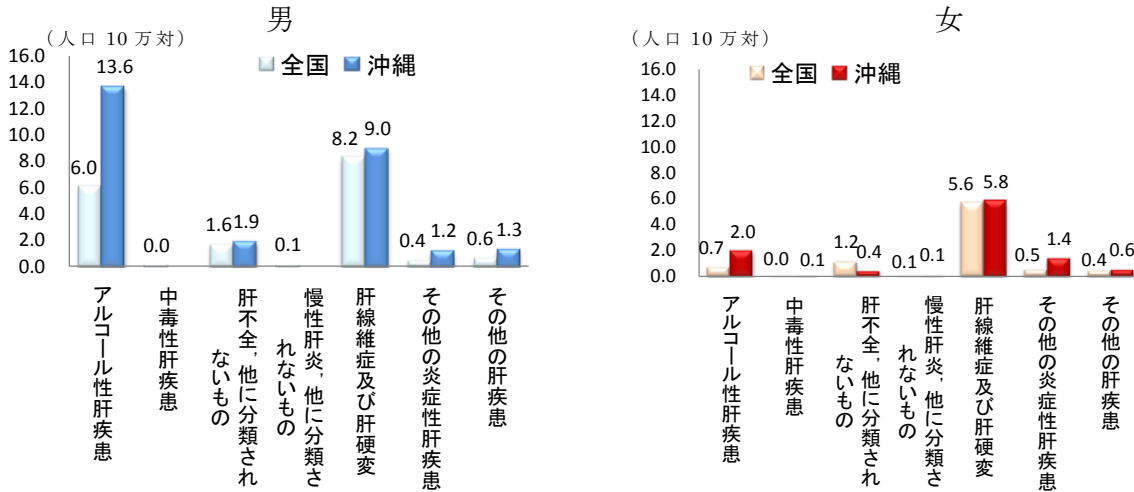


図4. 2009年の肝疾患死亡率（人口10万対）の沖縄県と全国の比較（人口動態統計より）

3. 肥満と肝機能検査値

沖縄県市町村実施の2007年度基本健康診査において、飲酒の質問に「全くお酒を飲まない」と記載した方の年代群別、BMI区分別、性別の肝機能検査値ALT(GPT)はBMI25以上では、BMI18.5-25未満の正常群と比べ、各年代、男女ともに肝機能検査値が高くなっていました。特に男性では、BMI25以上の20代30代の若い世代ほど異常率が高くなっています(図5)。

肥満の指標BMIは体重Kg÷(身長m)²で算出し、BMI25以上を肥満としています。

4. 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)

お酒を飲まない人でも肝臓の病気になる非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)という病気が注目されています。肥満に伴う脂肪肝、内臓肥満が関連し、一部の方ですが自覚症状がないままに、肝硬変、肝がんへと進行していくといわれています。

沖縄県ではアルコール性の肝疾患での死亡が多く、お酒を飲まないBMI25以上の方の肝機能検査値でも異常割合が高い状況があります。特に男性の死亡率が高く増加傾向で、肝機能検査値の異常割合も高くなっています。お酒を飲む方も、お酒を飲まない方も、肥満による肝疾患に注意しましょう。また、お酒を飲む方は、飲みすぎによる肝疾患に注意しましょう。

【企画管理班】

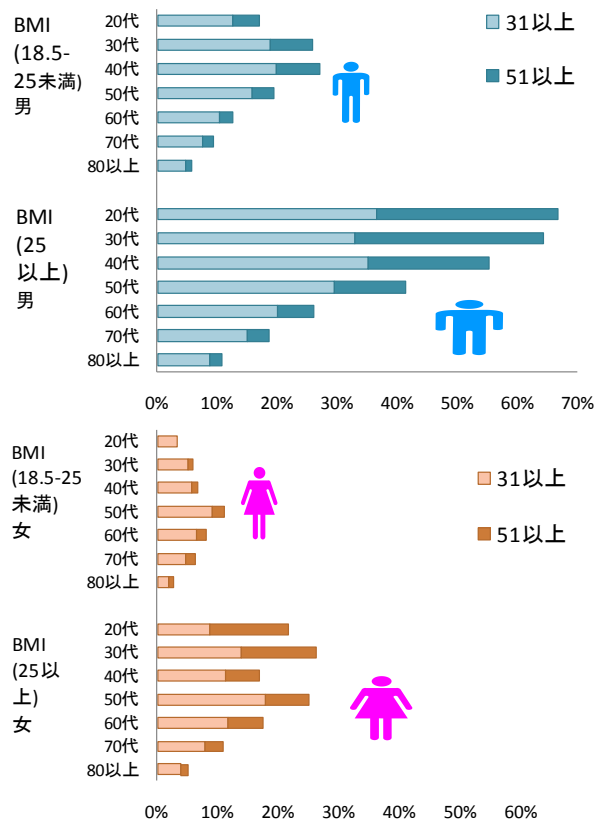


図5. 2007年度基本健康診査結果における「全くお酒を飲まない」回答群のALT異常値の割合
 ※ALT異常値 31以上：保健指導値、51以上：受診勧奨値。
 ※BMI 25以上：肥満、18.5-25未満：普通、18.5未満：やせ。